



一日も早い戦火の終息を
心から祈ります。

第3回 食と農の未来フォーラム

「原発被災地でオーガニックコットンを育てるこ^ト」(仮題)

ゲスト：鈴木純子さん ((一社)ふくしまオーガニックコットンプロジェクト（福島・いわき市）、
(一社)日本リ・ファッショナ^ン協会)



ふく・わたウェブサイト <https://www.fukushima.organic/>、
吉田恵美子さんご著作 <https://eijipress.co.jp/products/2360>



ウェブサイト
「フード・マイレージ資料室」

主宰 中田哲也

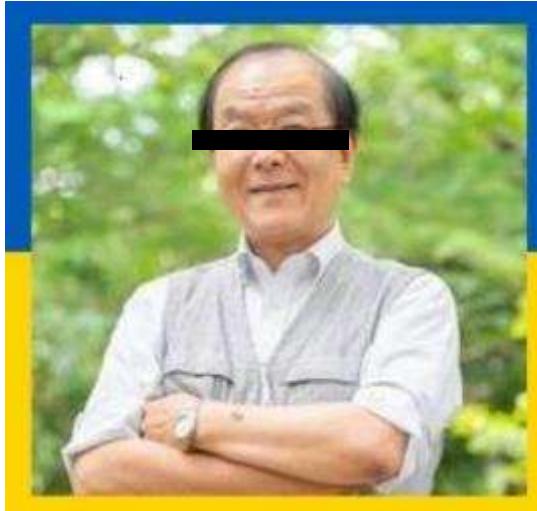
e-mail:

foodmleage(アットマーク) jcom. home. ne. jp

(本資料は後日、共有します。)



ご挨拶と自己紹介



1960年 **徳島市**生まれ

1982年3月 **岡山大学農学部**卒業、2012年 **千葉大学大学院園芸学研究科**修了
博士(農学)

1982年4月 農林水産省入省

2001年4月～3年7月の間、**農林水産政策研究所**において篠原孝所長
(現・衆院議員)の指導の下、**フード・マイレージ**に関する研究に従事

その後、九州農政局(熊本市)、北陸農政局(金沢市)、統計部数理官等を
経て2020年3月 **定年退職**。2025年3月、再任用終了

個人的なライフワークとしてフード・マイレージの普及等に取組み

ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」主宰

(ブログ、メルマガなど) <http://food-mileage.jp>

著書 **『フード・マイレージー あなたの食が地球を変える』**

(2018(新版)、日本評論社)

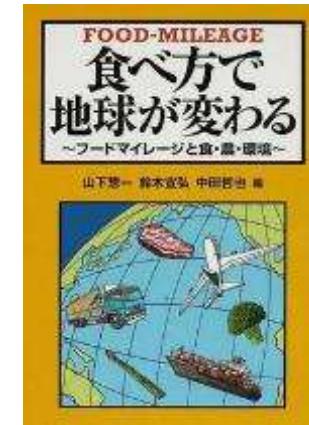
『食べ方で地球が変わる フードマイレージと食・農・環境』

(山下惣一氏、鈴木宣弘氏との共著、2007.7、創森社) 等

東京・東村山市在住。

自宅近くに市民農園の一画(30平米)を借りて農作業の真似事。

(ただし2025年度は抽選に外れ)





「食と農の未来フォーラム」の開催について



写真:野生キンラン（東京・東村山市）、堰浚いボランティア（福島・喜多方市）、PresentTree植樹イベント（山梨・笛吹市）

1 開催の趣旨と目的

(1) 現在、食と農は、様々な深刻な課題に直面しています。

例：食料自給率の低迷、担い手・農地など生産基盤の脆弱化、栄養バランスの崩れと食生活の乱れ、膨大な食品ロス等

(2) これらの課題の多くは、基本的に「食(食卓、消費者、都市)と農(産地、生産者、農村)の間の距離」が離れてしまっていることに起因しています。

多くの都市の消費者にとって、食べものは、お金さえ出せばいつでもいくらでも買える単なる「商品」に過ぎなくなっています。それが、どこで、誰によって、どのように生産されて食卓まで運ばれてきているかを、想像できなくなっています。

(3) 本フォーラムは、都市の一般市民（消費者）の方々を主な対象として、食と農の現場の実情と課題を身近に感じ、自主的な行動変容につなげて頂くことを期待して、中田個人（ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」の主催により開催するものです。食や農の現状に興味・関心をお持ち方など、幅広い皆様の参加をお待ちしています。

食と農の未来フォーラム（続き）

2 スケジュールと内容

【第1回】2025年6月30日（月）（終了）午後7時～9時、オンライン

[概要→]

「食と農の未来フォーラムの開催についてーなぜ農業問題は都市住民（消費者）の問題なのか」（仮題）をテーマに中田から説明と問題提起を行い、今後のフォーラムの取り進め方や要望等について意見交換。



【第2回】7月23日（水）（終了）午後7時～9時、オンライン

[概要→]

ゲスト：大友 治さん（本木・早稲谷 堰と里山を守る会、福島・喜多方市山都）

テーマ：「米は田んぼだけで作られるのではない 稲作が生産するのは米だけではない
—江戸時代から山間部の棚田を潤す本木上堰の現状と課題—」

（参考：本木・早稲谷 堰と里山を守る会）<https://www.facebook.com/sekitosatoyama> →



【第3回】8月26日（火）（本日）午後7時～9時、オンライン

ゲスト：鈴木純子さん（ふくしまオーガニックコットンプロジェクト、福島・いわき市）

テーマ：「原発被災地でオーガニックコットンを育てるここと」（仮題）

2011年3月11月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、福島・浜通り地域は深刻な放射能汚染を被りました。
現在もなお約2万5千人の方が避難を余儀なくされています。

事故後はいわゆる「風評被害」もあり、農業生産者の間では、もう浜通り地域では農業はできないのではないかといった絶望感さえ漂う中、耕作放棄地で有機農法による在来種の茶綿を栽培し、製品化まで行うたに立ち上げられたのが「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト（ふく・わた）」でした。

プロジェクトを中心となって担ってこられた吉田恵美子さん（昨年11月に逝去）のご遺作にも触れつつ、吉田さんのご遺志を継がれた鈴木純子さんから、原発被災地とプロジェクトの現状、日本の衣類の問題点等についてお話を伺い、意見交換します。

（参考：ふく・わた）<https://www.fukushima.organic/> →



【第4回以降】

（1）月1回程度の頻度で、食や農の「現場」に精通しているゲストをお招きして開催

（2）基本的にオンライン（zoomを利用）、年数回は料理教室や現地見学会をリアルで開催する予定

（3）ゲストの人選や内容については、参加者からの意見・要望を踏まえて決定

衣料について



図169 食料と衣料の自給率の推移

衣類の自給率は2.4%
(点数ベース)

資料：農林水産省「食料需給表」<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>

経済産業省「繊維産業の課題と経済産業省の取組（2018.6）

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/fiber/pdf/1806seni_kadai_torikumi2.pdf

注：衣類の自給率=100-輸入浸透率

輸入浸透率=輸入量÷（生産量+輸入量-輸出量）×100

出典：ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」<http://food-mileage.jp/>
<https://food-mileage.jp/2019/06/09/mame-169/>

注：図の番号は拙メルマガの号数

手放した衣類の65%は廃棄（焼却処分等）

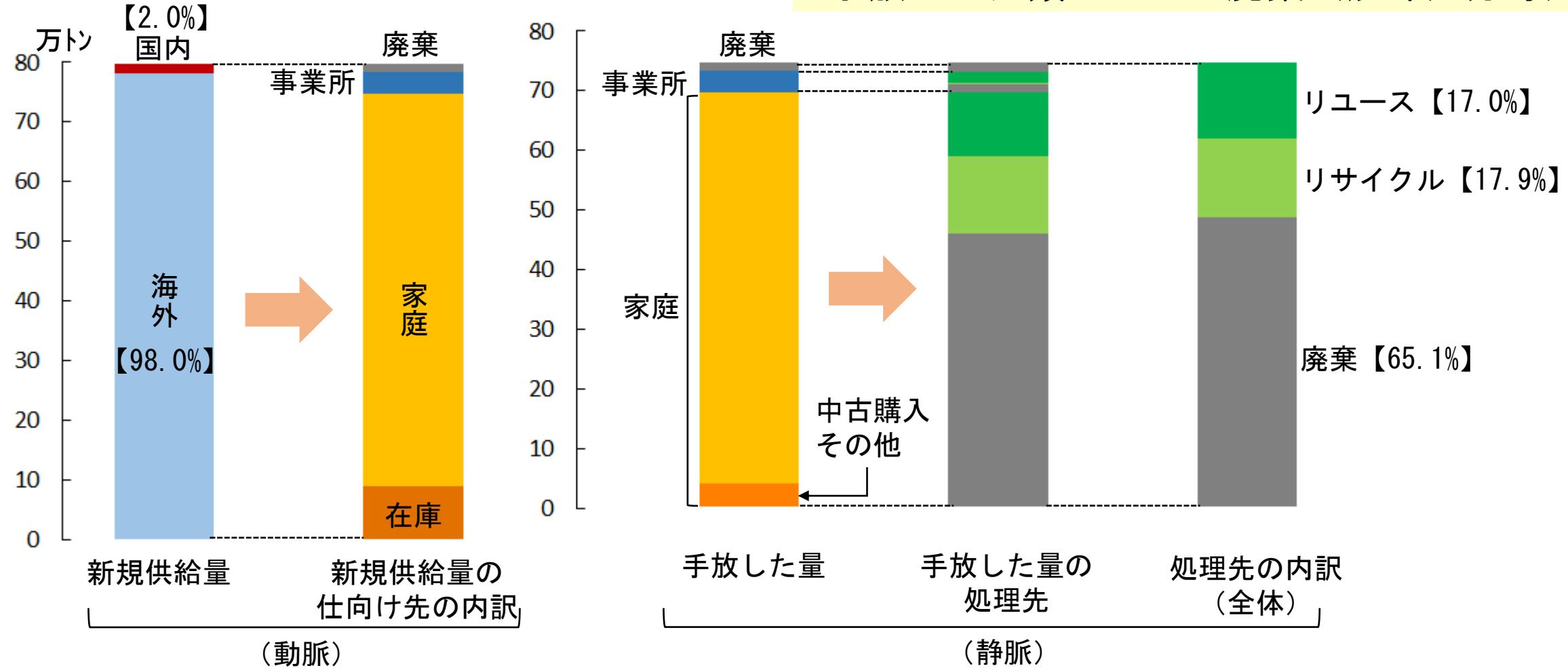


図306 衣類のマテリアルフロー（2022年）

資料：矢野経済研究所「令和4年度循環型ファッショングの推進方策に関する調査業務」（2023.3、環境省委託事業）から作成。

https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/goodpractice/case26.pdf

注：1)「マテリアルフロー」とは、製品が市場に供給されてから処理されるまでの工程のことである。

2)「動脈」とは製品の製造・供給の工程、「静脈」とは製品の廃棄やリユース・リサイクルが行われる工程である。

出典：ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」<https://food-mileage.jp/>

<https://food-mileage.jp/2024/12/24/mame-306/>

原発事故被災地の現状

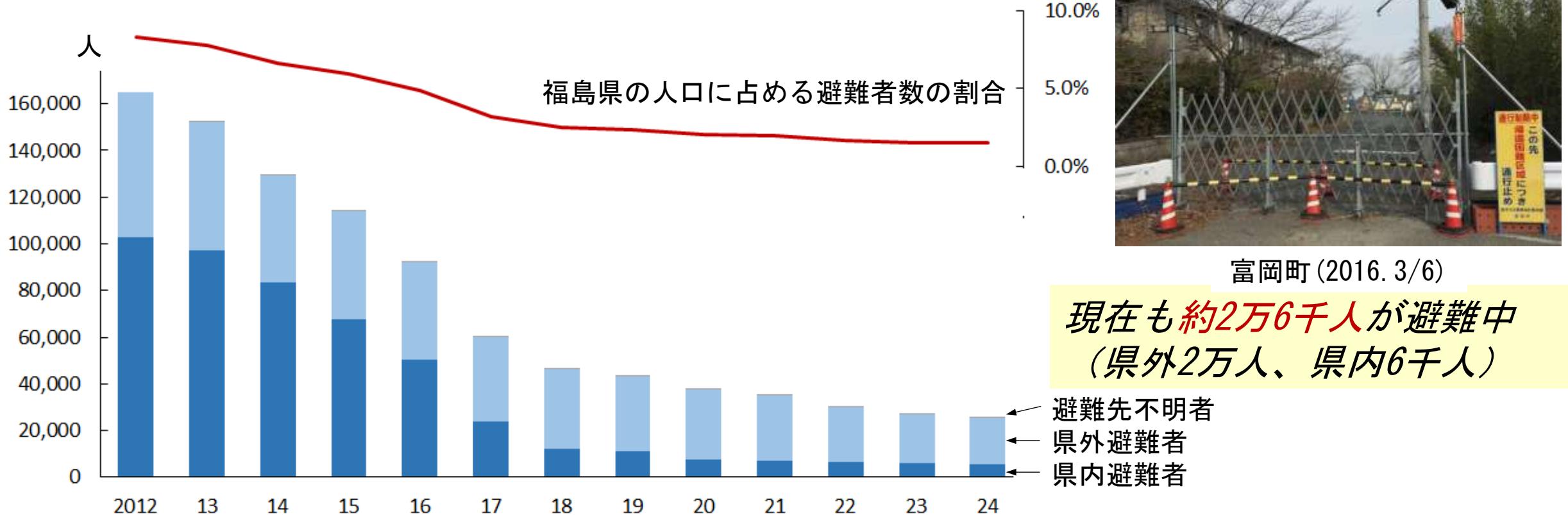


図311 福島県における避難者数等の推移

資料：福島県「復興・再生のあゆみ」(各年版)から筆者作成。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/ps-fukkoukeikaku1151.html>

注：1) 2024年は11月、他の年は5月現在の数値である。

2) 上記資料の基データは福島県「平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報」、復興庁「全国の避難者数」によるもので、前者には自ら住宅取得した人数や復興公営住宅等へ入居した人数は含まれておらず、また、後者は各地方公共団体の協力を得て復興庁がとりまとめた数字である。

出典：フード・マイレージ資料室 <https://food-mileage.jp/>

<https://food-mileage.jp/2025/03/27/mame-311/>

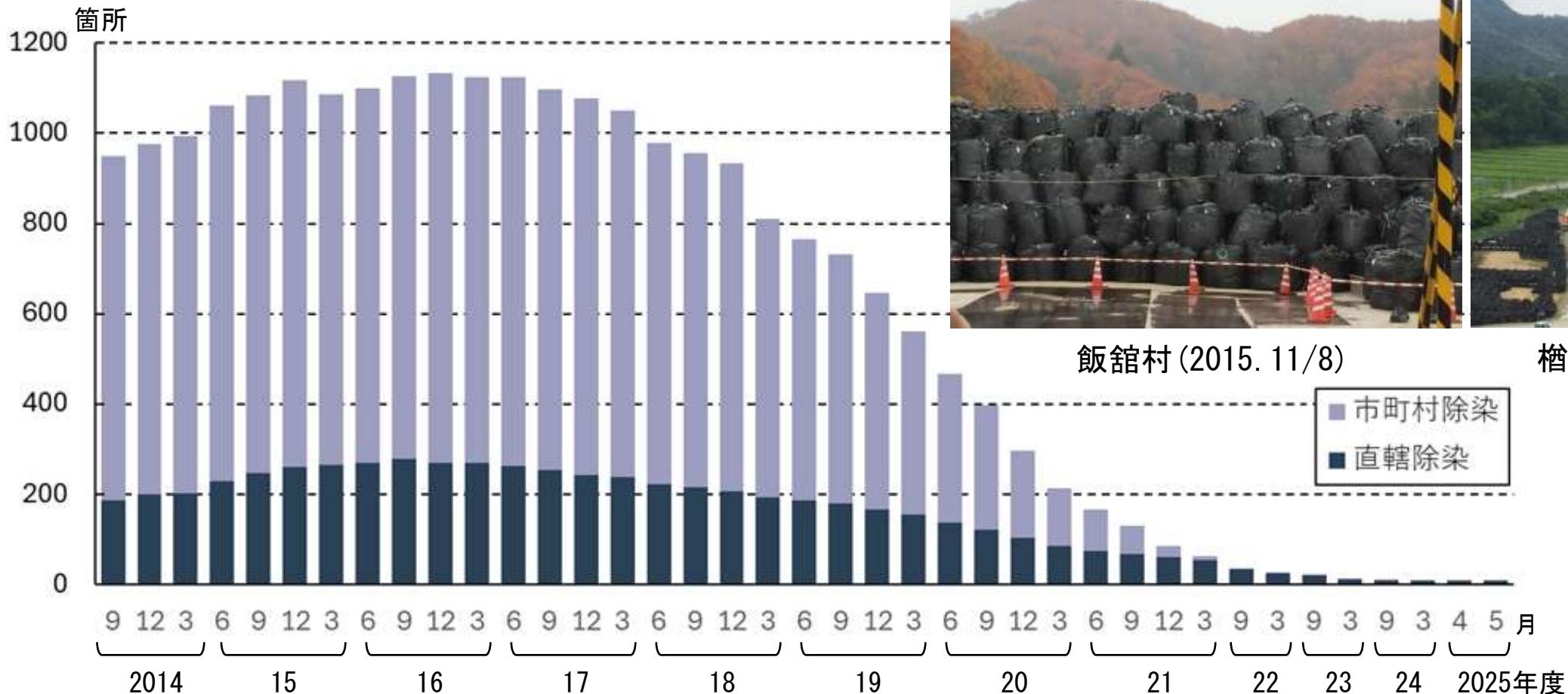


図321 除去土壤等を保管している仮置場等の箇所数の推移

資料：環境省除情報サイト「データでみる福島再生」（2025年7月7日）

https://josen.env.go.jp/plaza/info/data/pdf/data_2507.pdf

注：一時保管所、仮置場等を含む。

出典：フード・マイレージ資料室 <https://food-mileage.jp/>, <https://food-mileage.jp/2025/08/05/mame-321/>

除去土壤等は消滅したわけではなく、**中間貯蔵施設**（大熊町、双葉町 約1,600ha）に搬入
30年以内（2045年3月まで）に福島県外で最終処分することが法律で規定
最終処分の候補地については2030年ごろに選定や調査を始めるとの報道（2025.8/22）

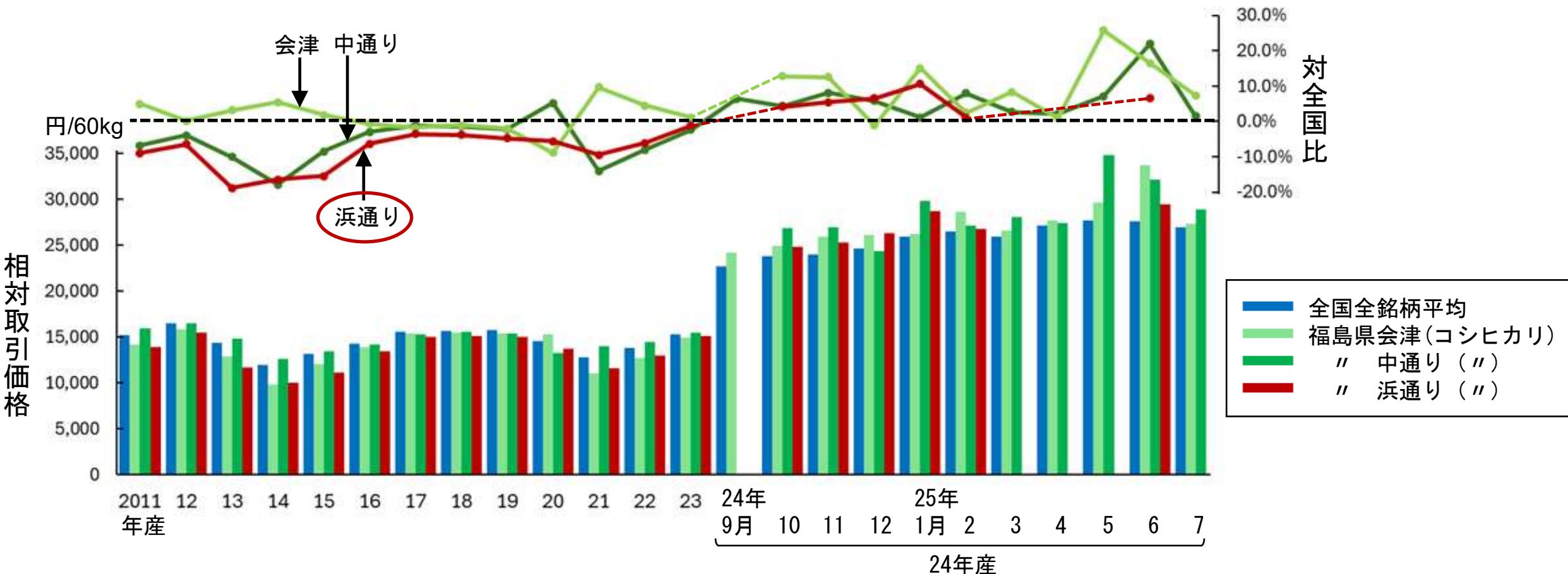


図323 福島県産米の相対取引価格の推移

近年の米価格の高騰は、結果として
福島・浜通り産米に対するいわゆる
「風評被害」の解消につながった

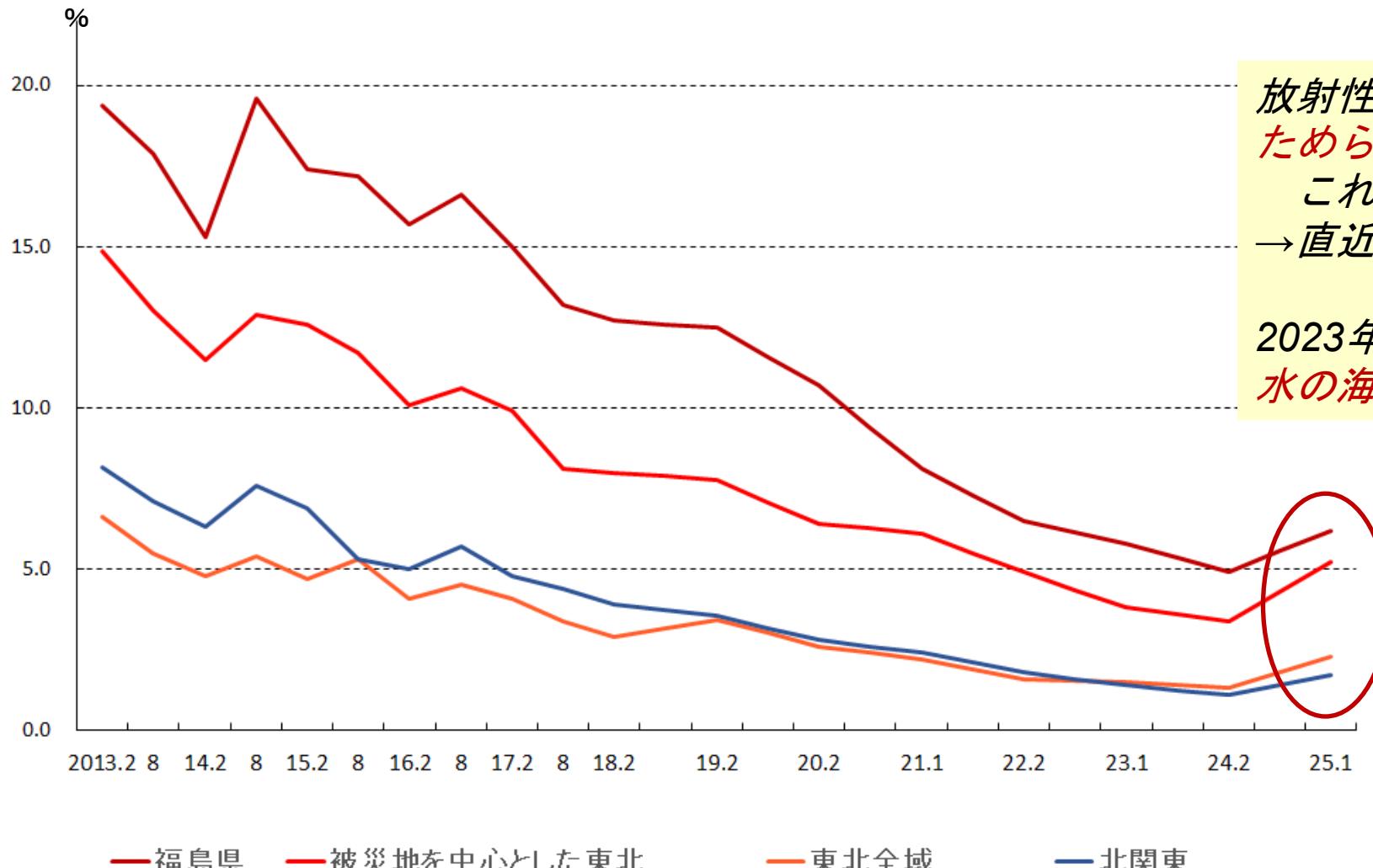
資料：農林水産省「米の相対取引価格・数量、契約・販売状況、民間在庫の推移等」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatsu/aitaikakaku.html>

注：相対取引価格とは、JA全農などの出荷団体(事業者)と卸売業者の間で取引されている価格である。

出典：フード・マイレージ資料室 <https://food-mileage.jp/>

放射性物質を理由に購入をためらう産地として「福島県」等と回答した人の割合



放射性物質を理由に福島県等の食品の購入をためらう人の割合
これまで低下傾向で推移
→直近（2025年調査）では上昇に転じた

2023年8月、東京電力が福島第一原発の処理水の海洋放出を開始

「風評」とは
科学的根拠の不確かな噂、流言

出典：消費者庁「風評に関する消費者意識の実態調査（第18回）」（2025年3月6日）
<https://www.caa.go.jp/notice/entry/041338/>

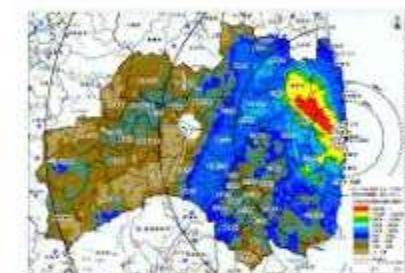
2011年3月11日2時46分 …そこから長く続く複合災害の影

自然災害

震度6弱
津波の高さ 8.57m
(平豊間)



人為的灾害



進む復興の中で感じ続けてきた地域課題

放射能汚染・情報不足の中での耕作を諦める農業者
者の増大・獣害・風評被害・震災体験の風化とイメージの固定化 福島の農業を取り巻く課題

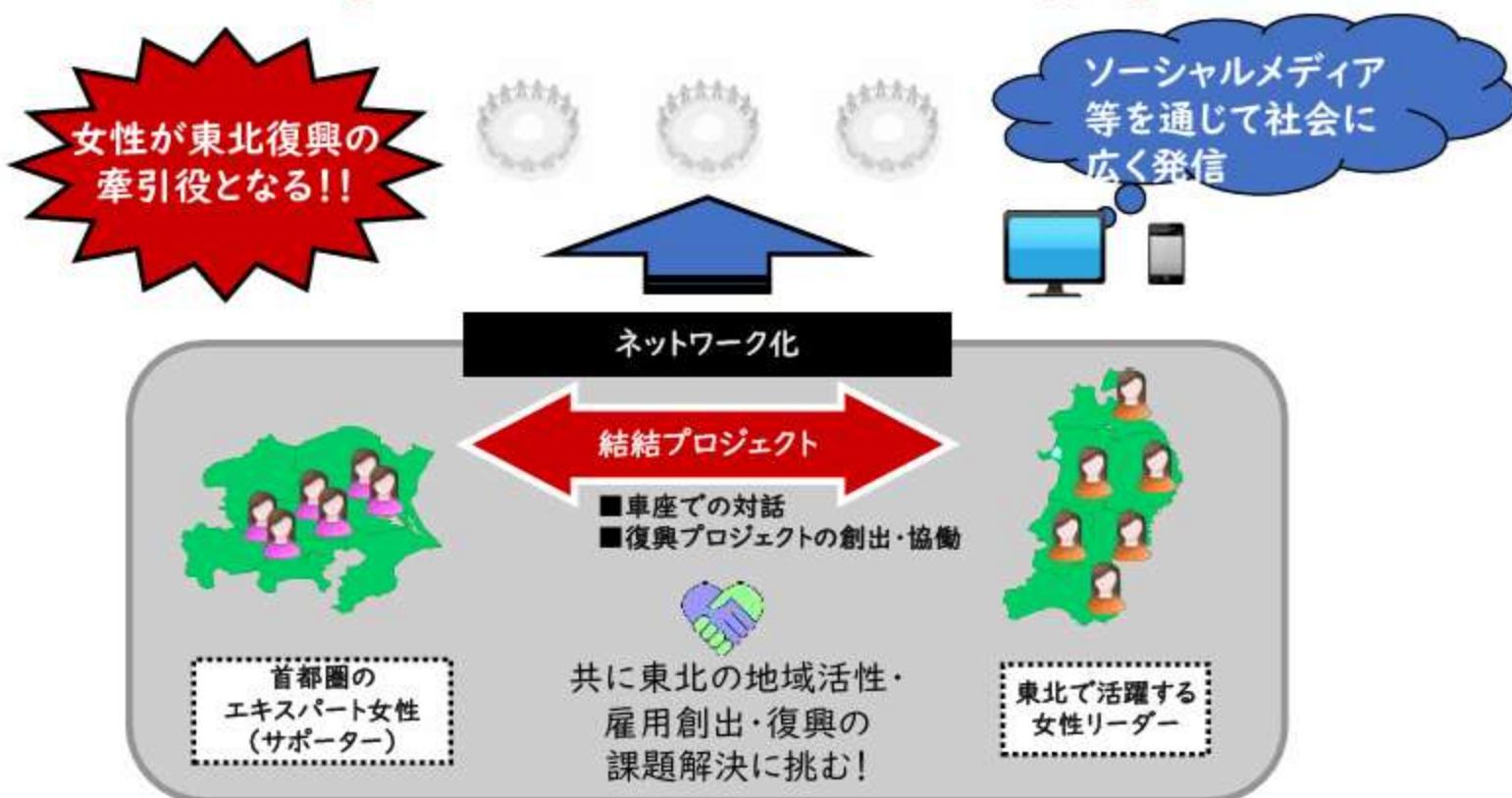
異なる被害状況にある人たちの共生に伴う地域
コミュニティの分断・避難と帰還の選択判断の難
しさ いわき特有のコミュニティの課題



東日本大震災復興支援「結結プロジェクト」

■認定NPO法人女子教育奨励会（JKSK）が東日本大震災を機に、東北の女性リーダー達が持てる能力を存分に發揮し、取り組もうとしている復興活動と共に考え、共に支援・協力・応援をしていくために立ち上げたプロジェクト（2011年5月発足）

【コミュニティソリューションモデルの創出】



活動Ⅰ. 車座（交流会）の開催によるネットワークの形成

■東北で活躍する女性リーダーと首都圏の社会課題解決のエキスパート女性との車座（交流会）を定期的に開催。回を重ね、参加者を増やすことによって、新しい価値観でコミュニティを創造する。女性ネットワークを100人以上に拡げる

→ 5回を経て164人（首都圏79名、東北85名／うち男性は44人）に

- 第1回 2011年7月15日～16日 in 宮城県亘理町 34名参加
- 第2回 2011年12月2日～3日 in 福島県いわき市 58名参加
※「未来のエネルギーを考えるシンポジウム」を同時開催
- 第3回 2012年4月13～14日 in 宮城県石巻市 53人参加
- 第4回 2012年10月19日～20日
in 宮城県南三陸町・大崎市 65名参加
- 第5回 2013年4月12日～13日
in 宮城県気仙沼市・気仙沼大島 64名参加

- 第8回 2015年7月10日～11日 in 福島県広野町（中田追加）

ふくしまオーガニックコットンプロジェクト 農業と人のつながりの再生を目指して

震災直後の情報不足の中、原発事故などの影響で耕作が放棄された農地で、食用ではなく纖維になる作物であるコットン(在来種の備中茶綿)を、農薬などを使わない有機農法で環境負荷をかけずに栽培し、ものづくりまで行おうとスタートしたプロジェクト。農薬を多用し遺伝子組み換えの種を使用して栽培されているコットンのあり方、纖維の自給率0%という日本の現状を、福島から変えることを目指す。



在来種の綿と有機農法

東日本大震災

原発の水素爆発

要素

在来種に
近いセシウム移行係数
低い有機農法
可能食用作物
回避

在来種茶綿

有機肥料、貝殻石灰、木酢液 のみを使用

復興への応援 と 農作業体験 の組み合わせ

多様な人々の交流 と 新たなコミュニティづくりの場を形成



資料:一般社団法人ふくしまオーガニックコットンプロジェクト

綿の栽培から製品作りの流れ



オーガニックコットンプロジェクトとSDGs





「古着を燃やさないまち」を実現した
33年の市民活動を通じて伝えたいこと

英治出版、2024/12/14
<https://eijipress.co.jp/products/2360>

吉田恵美子さんは2024年11月17日、享年67歳でお亡くなりになりました。
これからも、その想いを語り継いでいきたいと思います。

以上8枚、大和田順子先生から提供いただいた資料スライドです。

私と「ふくしまオーガニックコットン・プロジェクト」

初めての被災地訪問ボランティア（2011年6月26日（日）、南相馬市）



被害の甚大さに身がすくんだ → 焦燥感、**無力感**、忸怩たる思い

大和田順子さん（当時はJKSK理事長）から、ボラバスツアーへのお誘い 私にとっての救いの手、渡（綿）りに船？



左は2013年5月25日（土）、右2枚は同6月22日（土）。いずれもいわき市。右は久之浜の仮設商店街



2014年8月24日（土）、いわき市。右は道の駅よつくら港



2013年8月24日（土）、広野町
津波被害を受けた水田は復興の
ための消波ブロック置き場に



2014年7月12日（土）、広野町



2013年8月24日（土）、いわき市
防災緑地の建設予定地広野町



左は2014年9月13日（土）、右は同11月8日（土）。広野町。遠藤町長もご参加。





2018年4月8日（日）、広野町。
復活した「たんたんべろべろ」



2021年3月11日（木）、いわき市。復興10周年イベント。祈りのスカイランタン、太平洋に向かって黙とう



2024年10月5日（土）、いわき市。左から2枚目は吉田さん手作りの芋がらの甘酢漬け

ふくしまオーガニックコットンボランティアツアー2025

種まき 5/18（日）開催予定

オーガニックの畑にて種まき作業を行います。農薬を使用しないからこそその工夫がもりだくさん。オーガニックコットンプロジェクトの運営の方の話を詳しく聞く機会もあります。



草取り 7/6（日）開催予定

農薬を使わないからこそうつそうと育ってしまった草を取ります。全3回の中でも、最も充実感のある作業です。タイミングが合えばコットンの花をみることができるかも…。



収穫

10/5（日）開催予定

ふわふわの「わた」の収穫作業を行います。手でつかんで引っ張るとわたの部分がするつと取れます。唯一綿花に直接手で触れる事ができ、人気が高いツアーです。



参考：リボーンHP <https://reborn-japan.com/domestic/14871>

拙ブログ <https://food-mileage.jp/2025/05/20/blog-578/>
<https://food-mileage.jp/2025/07/12/blog-589/>

（草取り編の例）

■ 行程

7時30分

東京駅丸の内南口出発（雨天決行）

10時30分

いわき市内のコットン畠で作業
(途中で昼食)

16時

湯本温泉で汗を流して現地出発

19時頃

東京駅到着、解散

■ 参加費

15,000円

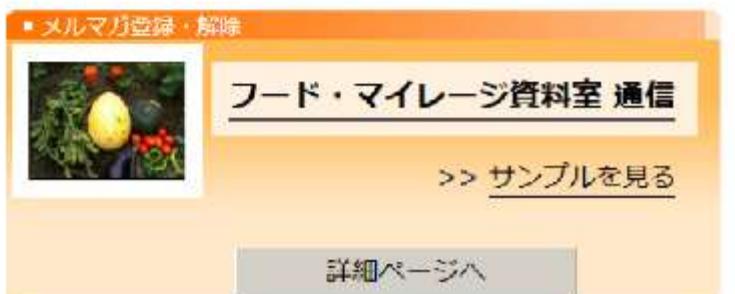
（交通費、昼食代、現地受け入れ費、保険等）



ご清聴
有難うございました。



- **FBページ 「フード・マイレージ資料室(分室)」**
<https://www.facebook.com/foodmileage/>



- **メールマガジン**
「F. M. Letter—フード・マイレージ資料室通信」
【月2回配信、無料】
<https://www.mag2.com/m/0001579997.html>

